

水稻新品種「むさしの26号」について

1 はじめに

近年、夏期の異常高温の影響などによる水稻の収量・品質の低下が問題となっており、高温耐性品種の育成が望まれていました。そこで、中晩生で高温耐性があり、従来品種に比べ1割程度多収の「むさしの26号」を育成しました。

2 「むさしの26号」の品種特性

県の準奨励品種である「彩のみのり」と比較すると、(1) 出穂期および成熟期は同程度の中晩生種です。(2) 稈長は10cm、穂長は1cm長く、穂数は10%少ない「偏穂重型」です。(3) 玄米の大きさは千粒重が22g程度と大粒で、収量は「彩のみのり」より10%多くなります。(4) 夏期の高温に対する耐性は「やや強～強」で、高温条件下でもお米の品質低下が少ないです。(5) 栽培期間中の倒れにくさ(耐倒伏性)は「中」です。(6) 埼玉県の重要な病害であるイネ縞葉枯病に対しては抵抗性遺伝子(遺伝子型: *Stvb-i*)を持ち、発病しません。

3 活用方法

主食用米の需給調整のため、飼料用米の作付が推奨されていますが、作付推進のためには、多収品種の取組に基づく産地交付金(12,000円/10a)が大きなアドバンテージになります。

「むさしの26号」は、その多収性を生かし、埼玉県に適する多収品種(知事特認品種)として国に申請し、承認されました。今後、産地で展示栽培を行い、普及を推進していきます。

表1 生育収量と玄米品質

品種系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米収量 (kg/a)	同左比率 (%)	千粒重 (g)	玄米外観品質	整粒比 (%)	白未熟粒比 (%)
むさしの26号	8/5	9/11	82	21.8	366	62.3	109	22.2	4.0	77.8	9.0
彩のみのり	8/6	9/13	72	20.7	407	56.9	99	22.5	5.8	51.5	32.3
朝の光	8/3	9/11	75	20.3	437	56.9	100	21.1	6.2	51.3	23.6

注)データは2011～2013年の早植栽培(5月中旬植)の平均値。玄米外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価。(4:1等相当, 5:2等相当, 6:3等相当)。整粒比,白未熟粒比はS社製穀粒判別機の値



「彩のみのり」は夏期の異常高温により発生する白く濁る粒（白未熟粒）が多いですが（写真右）、「むさしの26号」は高温に強いため透明感のある粒の割合が高く（写真左）、玄米の外観品質はより優れています（平成25年産）。

【問い合わせ先】

農業技術研究センター 品種開発・ブランド育成研究担当 水稻研究

電話：048-594-8321（代表） FAX：048-532-3113

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>